

インターネット利用国際比較調査の現状と今後

—WIP (World Internet Project) 20 年の活動への日本チーム (JWIP) の取り組みから—

○小笠原盛浩 (Ogasawara, Morihiro)、木村忠正 (Kimura, Tadamasa)、石井健一 (Ishii, Kenichi)、遠藤薫 (Endo, Kaoru)、三上俊治 (Mikami, Shunji)、橋元良明 (Hashimoto, Yoshiaki)

Keywords : インターネット利用、国際比較、World Internet Project (WIP)、JWIP (WIP 日本チーム)

1 目的

「インターネット」は、世界規模の巨大なネットワークとして成長してきたが、「技術」はグローバルに共通だとしても、社会毎にどのような技術が普及し、いかに使われ、どんな具体的なサービスがどう展開するかは多様である。そこで、インターネット利用に関する国際比較は、学術的にも重要だが、具体的に多国・地域を比較しうる尺度、質問を構成し、調査研究を実施することは容易ではない。この意味において、インターネットが世界的に普及を始めた 1999 年に開始され、30 カ国・地域以上が関与し継続している WIP (World Internet Project) は、貴重な試みである。本報告では、20 年を経過した WIP の活動と日本チームの取り組みについて、反省的に現状を分析し、「国際比較」という観点から「インターネット利用」を捉える枠組み、重要な論点を検討することを目的とする。

2 研究の概要

WIP は、2019 年 3 月現在で世界 5 大陸にまたがる 38 カ国・地域の研究チームが参加する国際的なインターネット利用行動調査プロジェクトであり、日本チームは、JWIP (Japan World Internet Project) として 2000 年から関わっている。WIP 調査の大きな特徴は、各国・地域チームが、それぞれ自律性を保ちながら、協働するため、各チームが共有し、国際比較を行うための「共通質問」と、それぞれの国・社会の特徴に応じて設定する「独自質問」を組み合わせ、各チームがそれぞれ調査を実施し、データを共有、調査研究を進めている点である。世界各地の多様な国・地域が参加しているため、「インターネット利用」をいかに定義し、質問文を構成するかから、各国・地域の違いが浮き彫りとなり、それぞれの社会の独自性、固有性もまた露わになる。さらに、インターネット自体の変化が激しく、20 年以上継続している WIP では、「共通質問」を数年おきに大きく見直す必要があり、その議論もまた、インターネット全体の大きな変化（例えば、スマートフォンの普及）と社会毎の差異を反映する。そこで本研究では、WIP における「共通質問」の変化と議論を改めて精査し、メディアとしての利用、オンラインサービスの変化、政治、市民活動、社会的信頼といった一貫した観点からのデータの変化を追うことで、「インターネット利用」がこの 20 年、世界各地でどのように変わってきたのかを跡付ける。そして、現在進行中の議論から、国際比較という観点で、インターネット利用の何が重要であると認識されているか、今後の調査研究の方向性への示唆を得る。

注：本研究は、平成 29 年度公益財団法人・放送文化基金研究助成、平成 30 年度公益財団法人・電気通信普及財団研究助成を受けて実施されたものの一部である。

【主要参考文献】 Cole, J. I. et al., (2018) World Internet Project Report, Ninth Edition, <https://www.digitalcenter.org/reports/>